

第2学年 音楽科学習指導案

平成26年10月10日(金) 5校時 第2音楽室
2年A組(男子17名 女子20名 計37名)
授業者 教諭 赤沼周子

1 題材名

混声三部合唱の響き

教材名 「君とみた海」 若松 敏 作詞・作曲

2 題材の目標 (学習指導要領の指導事項と共通事項のかかわり)

- (1) 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響き、旋律と強弱とのかかわり、リズムに関心をもち、意欲的に歌唱表現に取り組む。
- (2) 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響き、旋律と強弱とのかかわり、リズムを知覚・感受し、自分の思いをもって表現の工夫をする。
- (3) 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響き、旋律と強弱とのかかわり、リズムを生かして、表現する技能を身に付ける。

3 指導計画 (全8時間)

- ・曲のCDを聴き、旋律の動きや全体の響きを知覚し、曲のよさや特徴を感受しながら、旋律やリズムの特徴を生かしてパートごとに歌う。(2時間)
- ・全体の響きを意識しながら合唱するとともに、歌いにくい旋律やリズムを意識してパートごとに練習して歌う。(2時間)
- ・歌詞の内容をもとに、自分の思いを強弱や歌い方を工夫して歌う。(1時間)
- ・パートの役割を理解し、どのように表現したいかという自分の思いや意図をもち、旋律、強弱、リズム等の表現を工夫して全体合唱に生かして歌う。(2時間) 本時1/2
- ・歌詞の内容や声部の役割を意識して、曲想に合った表現を工夫し合唱する。(1時間)

4 本時の目標と評価規準 [学習指導要領との関連]

- ・声部の役割と全体の響きとの関わりなどに関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(音楽表現の創意工夫)

[A 表現 (第2・3学年)]

ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと]

[共通事項 : テクスチャ、旋律、強弱、リズム]

5 本時の困難度査定 (予想される生徒のつまずき)

- ・旋律の動きにより生み出される特質や雰囲気について気づきにくい。

6 本時の指導構想

【説明する】	【理解確認】	【理解深化】
<ul style="list-style-type: none"> ・「君の乾いた～砂ににじませてくように」の部分を取り上げる。 ・前の部分との旋律の動きが異なることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の部分は曲の盛り上がる直前の箇所であることを確認させる。 ・歌い方を工夫することで、盛り上がる部分につなげさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きから、音楽の特質や雰囲気に気付かせ、パートの役割を考え合唱表現を工夫させる。
<p><目標に達しない生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の見聞などを聞きながら、自分の考えをもてるようにする。 ・表現の工夫を比較しながら、よりよい歌唱表現に気付けるように配慮する。 		
<p>【自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴を知り、表現の工夫に生かそうとする。 ・協同的な学習を通して、歌唱表現で工夫したことや思いを振り返る。 		

7 本時の展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点
説明	1 「君とみた海」を合唱する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返りながら、本時の課題につなげられるようにする。
	2 学習課題の設定	
10分	パートの役割を考えながら、リズムのずれを生かした表現を工夫し、曲の盛り上がりにつなげていこう。	
	3 本時の取り上げる部分を説明する。 「君の乾いた～砂ににじませてくように」の部分 ・ユニゾンからリズムのずれ、音の重なりが生まれていることを説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には各自の楽譜で確認させる。 ・拡大譜を用いて視覚的にもずれていることを確認、全体共有する。
理解確認	4 「君とみた海」の旋律の動きについて確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で歌うのではなく、1パートもしくは1パート内の少人数が客観的に聞き、比較できるようにする。 ・旋律の動きを生かすことで、曲の盛り上がり部分にうまくつなげることができることを示す。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・君の乾いた素肌に涙こぼれているの部分 リズムをずらさずに歌った場合と、ずらして歌った場合とを比較し、リズムのずれの良さについて考える。 	
理解深化	5 グループごとに表現を試しながらパート練習に取り組む。 ・重ねすぎた悲しみ少しずつ 砂ににじませてくように の部分 グループに分かれて話し合い、方向性が決まったら歌唱表現できるようにパートで練習する。 ＜話し合う内容： <i>ff</i> につなげるために＞ 強弱はどう工夫するか。 リズムはどう工夫するか。 ＜リズムのずれの良さについて＞ 優しく歌う場面：切なさや不安さ等を表現できる。 力強く歌う場面：盛り上がりを演出する	<ul style="list-style-type: none"> ・女子はパート別、男子は少人数に分ける。 ・男子は意見がまとまったらパートで共有する。 ・工夫する上で、以下の内容は最低限気をつけるようにする。 ①リズムのずれが生じている部分は各パートの音価を保つ。 ②リズムが合う部分は全体で縦が揃うようにする。 ・言語による発表と合わせて、どのように表現したかを演奏で示せるようにパート練習する。 ・話し合った内容はプリントに記入する。
	20分	
自己評価	6 グループで工夫した点を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで工夫した点について、言葉や実際に歌って表現させる。 ・2パートまたは3パートで工夫したことを生かし、合唱し、全体の共有場面とする。 ・本時の工夫した部分と一番盛り上がる部分を全体でつなげて歌う。 ・確認できた内容については、紙板書に記入していく。 ・合唱の時に、リズムのずれの部分とそろっている部分の感じ方の違いに触れ、そろっているところの良さについても考える。
	7 工夫した部分を合わせる	
10分	8 まとめの合唱をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合った内容を振り返りながら合唱する。 ・振り返りプリントに記入させる。
	9 自己評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムのずれを生かして歌うことで、一番盛り上がる部分にうまくつなげることができた。 ・パートの役割を意識して合唱すると、より一体感が生まれる合唱になった。 	
	10 次時の確認	

